２０２３アジア大会　感想

男子コーチ　石川眞也

期日　２０２３年８月１６日～２０日
場所　マレーシア　・　クアラルンプール

今回初めてコーチとして随行しました。
１５日に関空を飛び立つ予定でしたが、台風の影響により１日遅れの１６日に出発となりました。
幸いにも、大会には支障もなく開会式に臨むことが出来ました。
ジュニアは８か国、女子は１４か国（１６チーム)、男子は１４か国（１６チーム）の参加でした。
日本選手団は全力をもって挑みましたが、まだまだ、タイ・カンボジアをはじめとする強豪国には足元にも及びません。
それにわをかけ、私はコーチとして初めての参加で、選手のパフォーマンスを引き出すことが出来ませんでした。
選手は、試合後みんなで反省をして次に繋がる様、休む間も惜しんで練習をしていました。
それが逆効果で、体力を消耗してメンタルが低下集中力を保つことが出来なかったと思います。
パフォーマンスを保つには、試合に臨む前、試合後、次の試合までの時間の使い方が非常に重要だと感じました。
コーチとして、４人の選手がチームとして、機能するのか今の私には、答えを出すことが出来ませんでした。
大会に臨むにあたり、先ずは選手の健康管理、個々の能力を高めること、メンタルを鍛えること、選手個々にルーティーンを確立することが重要に思います。
そのためにコーチとして何ができるか改めて考えさせられました。
これから日本のレベルを上げるためには、強化部会において長期計画を立て（３～５年計画）選手の育成・強化をしていく事と同時にコーチの資質も高める事が必要に思います。
先ずコーチは、コミュニケーション能力(英語を話せること)が重要に思われます。
なお、コーチ以外に選手団の中にマネージャーが必要かと思われます。
色々気付いたことを取りとめもなく述べましたが、ご容赦のほどよろしくお願いします。
先輩コーチに教えを頂きながら、選手の強化に努めたいと思います。

今回のアジア大会にご支援ご協力いただいたマレーシアペタンク連盟・日本ペタンク・ブール連盟関係各位に感謝申し上げます。

アジア大会報告書　難波利彦

１　事前準備

今回のアジア大会は８月 17 日から、マレーシアのクアラルンプールでの開催でした。

日程が早かったため、選手選考はティールとポワンテの技能審査のみで行われました。本来は夏季合宿でシングルス戦を行い、その結果も反映させるはずでしたが、日程の関係でそれができなかったということです。実戦に近い内容の選考ができたらよかったと感じました。

また、代表選手同士の意思の疎通や、作戦面での共通理解などチーム力を高めることが必要と考えますが、居住地が遠く、それもままなりませんでした。LINE のアプリを使って、そのあたりを工夫すればよかったと感じました。

２　競技力

他国の選手と比較して、とにかく精度で劣っていたと感じました。タイや、カンボジアだけでなく、その他の国々の選手たちも明らかに精度が高いと感じました。そして、若い選手がどんどん出てきていました。日本でももっと若い選手が海外に挑戦することができるような環境をつくっていくことが大切だと感じました。

３　チーム力

昨年も同じことを感じました。さらにチーム力を向上させるためには、現地に行ってからも、ミーティングなどで、作戦面での共通理解をはかるなど、チーム一丸となっての動きをもっとしっかりすればよかったと反省しています。

４　大会運営

日程はシューティングが最初にあり、それからトリプルスなります。シューティングに出場する選手は、かなりハードとなります。それなりの準備が必要だと感じました。シューティングに出場する選手は、トリプルスは控えにまわるなど、体力の温存を図っている国もありました。

５　食事など

食事はクセのあるものが多く、苦労していた選手もいたようです。特にジュニアの選手は労していました。女子選手の中には、ふりかけ、梅干し、みそ汁など日本食を持って行った選手もいました。日本選手団として、そのあたりも情報共有が必要かなと感じました。

６　その他

慣れない国で戦い、良いプレーをすることはとても大変ですが、各自が日ごろから練習に励み技術をあげていくしかありません。そして強靭なメンタルを作り上げなくてはなりません。どこでも、誰が相手でも、自分の力が発揮できるようなメンタルを！

※最後に

スタッフや日本から応援していただいた方や現地のスタッフのおかげで気持ちよくプレーすることができました。今後の派遣メンバーのためにも、この経験をお伝えできればと思っています。いつでもお声掛けいただければと思います。

頑張ろう日本チーム！

アジア選手権大会報告書

中村　孝

中村は、夢がありました。
「死ぬ前までに、もう一度国際大会に選手として出場したい。そしてシューティングの代表になりたい。」という夢がありました。昨年度は、残念ながら一次選考で２位になっていましたが、２次選考で最終的に９位になり、希望は適えられませんでした。しかし手応えがありましたので、今年度も挑戦しました。課題の練習をし、ティールの精度を上げました。ポワンテはまだまだ十分とはいえませんでしたが、一次選考でティールが１位、ポワンテは９位総合で２位になりました。昨年と同じですが、今年は国際大会が、８月、９月と８月の強化合宿での結果を反映できず、１次選考の結果で決めるということで、アジアと世界の切符を得ることができました。
　合宿までに、ティールとポワンテの精度アップを目指して日々努力しました。しかし、結果は伴いませんでした。合宿で、シングルス戦が６勝５敗と振るわず、特に５敗目が詰めの甘さで逆転負けして、２位の座から４位に陥落。かろうじて、面目を保つ。しかし、シューティングの選考では、アジアでも世界でも代表になれず。ややがっかりでしたが、それも私の実力。石川コーチから、アジアは堅田さんと難波さんがティールかミリューを担当し、渡邊さんと中村がポワンテとし、その場で調子のよい方を試合に使う旨を聞きました。シューティングはできなくても代表としていく限り、自分のベストパフォーマンスを出せるように、出発まで努力する気持ちを持ちました。ポワンテでもティールの場面があるので、両方精度を上げる手首の返しを意識したボールの回転数を上げる投球練習を、ティール、ポワンテで行っていました。

　アジア選手権大会に実際に出場してみて、全体を通じて、高揚感はあるものの舞い上がってはいなかった。緊張もせず普通に近い気持ちで試合に臨めたと思います。たぶん。
　記憶をたよりに報告しているので、メーヌ数と得点に多少の誤りがあると思います。
第１試合　カンボジア戦　ポワントゥールで先発した。
　１メーヌ目　ポワンテが２球成功した。相手のティールが当たらず。こちらのティールも当たり２点を取る。２メーヌ目も相手のティルールの調子が悪く、当たらず。中村のポワンテも２球よかったので、球数有利に進み、２点を獲得。４点先行、幸先よく進んだが、３メーヌ目、中村のポワンテが１球目が短く、２球目は奥に遠く、球数で負けている場面で、相手のミリューのティールがよく当たり、４点を取られ同点になる。そのメーヌから、相手のティルールが当たるようになって、相手がやや有利な攻防が進んだ。中村のポワンテは、まあまあ所に置けたと思っているが、ティールの精度に差が出てきて、防戦一方になり、10点まで取られた。相手のポワンテが短かったり、オーバーしたりしてこちらに流れが来て、テ

ィールも打って残しての攻防をしつつ、7 点まで挽回したが、ラストメーヌの前に時間切れのブザーが鳴った。ラストメーヌはティールが当たらず投げきって、相手にティールカロされ 3 点以上取られて 7：１３で敗退した。カンボジアに対して善戦したが、ポワンテがまず成功しないと話にならない。ティールの精度は相手が上なので、相手がポワンテの失敗したときに、こちらがきっちりいい場所に置かないと、点を取りに行けない。ティルールとミリューとが健闘していても、ポワントゥールの 1 球目のミスが後々、球数の差になって、結局投げ切りになることになる。カンボジアに対しては、3 人がよく役割を果たしていたと思うが、ミスの数は日本の方が多かったかもしれない。前半のカンボジアのティルールの調子が悪かった時に、点を多く取れなかったことが悔やまれる。そういう点で、私の 3 メーヌ目の 2 球のポワンテのミスは、試合の流れを相手に渡してしまう悪手だった。また、追加点を取れるチャンスで、入れに行って取れないことが 1 回あったように思う。

第 2 試合　中国戦　ポワントゥールで先発したが、途中で交代した。

冷静に試合をしているつもりだが、思い出せないことが多いのは、まだまだ、考えが至らなかったのかもしれない。中国戦は、相手の先行から始まったが、ティルールとミリューの働きで追いつき、時間切れになって 1 点差で勝てた。

先行された試合だったが、抜きつ抜かれつで試合が進み、中村のポワンテもそこそこいいところには寄せていた。中国は、シューティング 2 位になった選手を温存して出さず、日本をなめていたかもしれない。ティールを 1 回外すと 2 球目は打ってこず、ポワンテを選択する守備を重視した戦法だったが、これがうまく回らず、日本のリードを許した。

8 点か 9 点の時に、中村が 2 球ショートしてミスをした。そのメーヌの苦戦を強いる原因を作ってしまった。「これは交代だな。」と思った通り、交代を告げられた。が、1 メーヌ続けなければ交代できないと審判に言われ、交代前の 1 メーヌは緊張感を持って十分に役割を果たした。「打たれてももう一度同じように寄せられること」「緊張感を持って試合を進めねばならないこと」を痛感した。交代をして、鍋島さんはいい寄せを示した。2 点リードで最終メーヌになり、相手はティールで有利になる場面があったのに、寄せで攻撃してきて、1 点を取ったが、時間切れで、日本が 10：9 で勝てた。

ポワントゥールであっても、ティールのチャンスが来る。さらに得点を取れるときか、防御としてのティール＝相手の 1 番を打って、こちらが点を 1 点か 2 点を取るという場面。それが中国戦の中盤であった。中村が当てさえすれば、3 点は取れて勝ちが近づく場面で、左に外してしまった。この精度の悪さ、集中力のなさは、情けなかった。

交代で出た鍋島さんは、活躍し面目を保った、ポワンテの交代という役割を成功で果たす。

第 3 試合　ベトナム戦　中村は先発を外れ、途中交代してポワントゥールで出場

ベトナムは、6～7 メートルを選択し、ティールカロで大量得点を取る戦法で、日本に挑んできた。序盤は、日本もティールが当たり、しのぎながらも得点を取られていた。数メー

ヌ進んだとき、日本の寄せがかなり外れてしまった。防御したブールが１ｍぐらい離れていたが、投げきりでベトナムの攻撃になったとき、ティールで邪魔なブールを打ち飛ばし、カロで残して５点取った。ここぞという時のティールの精度と、チャンスでしっかり寄せられるポワンテの技術力に感服した。投球はきれいな曲線を描いてくるし、スピンもしっかりかかり思い通りに寄せているように見えた。相手が１０点になったところで、ポワントゥールを交代しテランに入る。１点でも挽回したいと思って、投球したが、寄せればティール、少し離れれば、ベトナムの絶妙な寄せで、ティールして外してもまた入れられ、最終的に日本が投げきることになり、ベトナム戦法は、はじめから代わらなかった。「ビュット２～３０ｃｍに寄せる。打たれたらまた同じように寄せる。ティールをさせて相手の球数減らして、さらに寄せて追加点を稼ぐ。相手が寄せてきたら、ティールカロで同じことを繰り返す。投げきりにさせて、精度の高いポワンテで得点を稼ぐ。」そういう試合をしたい。ポワンテとティールの精度を上げることが必須だと強く感じた。私が出て２メーヌで負けてしまった。０：１３とファニー負けだった。

第４試合　チャイニーズタイペイ　中村はポワントゥールで先発した

チャイニーズタイペイは、ジュニアと言ってもいいほど、ほんとに若いチームだった。ベトナムと同じように、ティールしてカロを出し、複数得点を狙ってきた。思い切りのいいティールと、ビュットにデッドに向かってくるポワンテで、日本を圧倒した。日本に得点のチャンスが来ても、相手のラストボールがしっかり１番に向かってきて、１番か２番を取りに来た。日本のチャンスが来ても点を取らせない防御をしっかりとできるチームだった。それ以降は点を取れず、相手に一挙に５点を取られて、５：１３で負けてしまった。日本の敗戦は、点を取れるチャンスに、ティールを外して点が取れず、相手の点になるか、取れても１点だったこと。相手は、上手に防御できていて、点を取れるときには、きっちり日本の１番を打って、２番も打って、複数点を取れていたこと。

日本が追いつくためには、地道に基本を押さえて、精度よく投げることができれば道が開けるように思える。が、組織を上げて強化する必要がある。しかし、中村には時間がない。

ネイションズカップ

インド戦　ポワントゥールで先発した。

インドの選手は、ミリュー以外はペタンク歴の少ない人たちだった。ドゥミポルテで寄せるかティールをする戦法だった。１メーヌ目に５点？を取って、主導権を握った。唯一点を取られそうになったのは４メーヌ目だったが、インドのティールは外れ、ポワンテも寄らず、１点を日本がもぎ取り、0で押さえる。次のメーヌで６点？を取って、0：１３で大勝した。ポワンテとしては、ほぼほぼ寄せはできていたと思う。点を取れる相手には、弱みを見せずに勝ちきること。それが、きっちりできた試合だった。我がチームのミリューのティールがほんとによく当たっていたし、ポワンテもうまく寄せられた試合だった。

ネイションズカップ

マレーシアＢ戦　ポワンテとして先発出場

マレーシアＢチームも若いチームだった。全員がジュニアだったような気がする。

マレーシアＢも、７，５ｍ程度で、相手の寄ったブールを打ち抜き１ｍ程度でカロして、ビュットの周りにブールを残す。マレーシアＢより寄ったブールはティールでどかす。

ポワンテの私がラスト球で、ティールのチャンスが来た。試合が違うが、これまでに２回ほど失敗している。距離は１０ｍ近く。思いっきりラインを取って投げた、ワンバウンドして相手の球を弾いて２点を取った。うれしかった。それで日本は４点になったが、それ以降追加点は取れず、４：１３で敗退した。日本が何もできなかったのではなく、しっかり作戦を立てて望んでいるが、相手はきっちりその場面で相談したことを実現させているが、日本が相談したことを実現させるのに２球使ってしまうか、不十分な結果になっていることの違いだ。つまりは、投球の精度の差。最後のメーヌも日本の３人に１球ずつミスがあったと思う。そこをきっちりつかれて、５点取られてあっけなく終わってしまった。

ネイションズカップで３位になることも、さらに上のアジアカップにベスト８になることも、遙か遠くに感じる大会だった。中村は、本当はティルールで国際大会に出たかった。シューティングにも出たかった。その望は残念ながら、今の実力ではおよばなかった。任された役割は、７～８割成功していたと思う。それでは、国際大会では通用しないと実感している。世界選手権では、もっといい成績を残せるように、自分の持てる技を駆使して、任された役割を全うしたいと考えている。

大会を通じて考えること

① 宿泊したホテルに、大会関係の案内板がないこと。ホテル側に、部屋割りも含めて、全くわかる方がいないので、大会関係の質問や要望は、マレーシアの大会関係者（女性）に話をしなければ、問題や疑問が解決しなかったこと。それが、非常に混乱の元、漠然とした不安の元になった。大会情報の提示とその連絡が十分ではなかった。

② 海外で使える携帯が、必需品であることをひしひしと実感した。特に中村の携帯は、郷間さんのワイファイに依存していたから、郷間さんから離れるとホテル外では通じない。この不便さは、困った。まあ、マレーシアの世話人がいて、担当ボランティアがいてその方々と十分なコミュニケーションが取れていなかったことも事実。大会の日程の情報把握という点で、コーチにはもっと動いてほしかった。「連絡は、ラインを見ろ」の指示がでていたが、見落としてやばいときがあった。

③ 会場入りしたときから、井上まち子さんだよりだったので、大変困った。日本チームは、何時どこでミーティングをするのか。試合が始まる前に、少し話し合いはあったが、計画的な練習はできず、個人練習で試合に臨んでいたように思える。試合が終わったら？何か話をしたかな？しなかったな。それがチームワークのなさと堅田さんが言っているのかな？中村は、ホテルに帰ってきてから、食事の時にミーティングがあってもよかっ

たのではないかと思う。何日もあったのに。会場から戻ってきて、ロビーで打ち合わせするということにはなっていなかったように思えるが、最終日、中村は解散式に参加していなかったことは、深く反省する。少し考えればわかることだし、みんなの動きを待たず、ホテルに着いたら部屋に戻ってよいという確信で、行動してしまった。携帯でラインが入ったときに大音量になるように設定していないのも、いけなかったと思う。せめて男子のメンバーの棟が同じで、さらに同じ階で、チームで行動できていたら、夕食後にもっと話し合いができたかもしれない。チームの歴史が浅いのだから、試合の度に振り返りは必要だし、それを踏まえて、次の試合の前の練習ではないかと思う。

④ 練習試合を計画的に設定できていたらよかったかなと思う。コーチが積極的に対戦チームを見つけてくれて、練習試合ができたら良かったと思う。中国、シンガポール、ベトナム女子、チャイニーズタイペイ、香港と対戦したが、最後までできなかった。合間を見つけて、各選手が練習するのも必要かもしれないが、あの場では、コーチの見定めの元で、練習試合は必要なことなのではないか。シューティングの時には、よくアドバイスをしてくれていたように思える。トリプレットでは、コーチとしてどこまで入るかは、難しい判断だと思う。気心が知れていることが必要だし、そういう点で、経験豊富な難波さんが、中村と同室になったのは、チームワークを高める点で良かったのだと思う。

⑤ 選手として思うところは、健康でよかった。今回、具合が悪くなる方が多かったように思える。健康管理は、基本本人の力。心がけと努力と日常生活の規則性、健全性だと思う。病気になることもあるから、やむを得ないこともあるかもしれないが、健康でいられたということは、大きな成果だったと思う。最終的に、同部屋の難波さんは、インフルエンザA型にかかっていて後半は、マスクをして、大変そうだった。行き帰りが同じ小岩宗一郎君も、後半発熱してインフルエンザA型だった。和田君が２日目から体調を崩したし、名畑さんも体調を崩した。吉本コーチも咳き込んでいた。インフルエンザA型が流行っていたのかもしれないが、最後まで健康でいられてよかった。中村は、帰国時にのどの渇きといがらっぽさを覚えたが、病院に行くほどではなく数日で直った。

⑥ 現地の食事をおいしく食べられていたことも健康でいた要因だと思う。辛すぎて口に合わないものが比較的少なかったので、タイ米も楽しみながら食べられた。ジュニア（特に男子）に偏食が多く、日本からカップラーメンを持ち込んで食べたという会話があったが、長くいれば日本食が恋しくなるということとは違うと思う。何でも食べて、血肉にするたくましさが、必要かもしれない。

以上、長々と文を書きましたが、同行したコーチと選手の皆さんと日本ペタンク・ブール連盟の事務局の皆さんのおかげで、大会に参加し無事帰国できたこと、ほんとに感謝しております。ありがとうございました。

よい成果を出せなかったことは、選手としてふがいなく悔しく思っています。次の世界選手権では、その反省をもとに、旅程に不安がありますが、大会は頑張って参ります。

●アジア選手権レポート

アジア選手権で感じた事は多々ありましたが上位チームの pétanque はとにかくシンプルでした。

いかに相手に球数を使わせ、いかにミス（連動なども含む）を誘うかを中心にゲームを組み立てており、観ている側からも"ゲーム"を感じる事が出来ました。

上位チームもミスはするのですが milieu のリカバリーがかなり素晴らしく milieu とは何かを学ぶ事が出来ました。

そして上位チームにはこういった milieu が確実に居り、相手のミス待ちの pétanque では無く、点を取りに行ける pétanque を行なってます。

国内では感じられない体感・体験だと思い、私自身も戦略・戦術の立て方、各ポジションに求められる技術など多くを学びました。

日本も強い milieu が育てば 8 強には間違いなく入るので"1 人の強い milieu"を目指し、精進して参ります。

鍋島吉博

アジア選手権大会報告

女子コーチ　井上まち子

２０２３年8月１６日から２１日、第５回アジアペタンク選手権大会がマレーシアで開催されました。今回は出発日程に台風が重なり、選手・コーチの空港への交通や飛行機の運行が厳しく、大きく不安を抱えての出発となりました。

また、空港近隣での前泊や飛行機遅延のために追加ホテル予約が必要となったりと、慌ただしい中、大会には間に合うようにと、選手、メンバーの努力で何とか全員参加ができたという状況でした。

＊現地にて、会場のテランはやはり硬く難しい、勿論、石・砂利が多い。ポルテの投球には相当精度の高さが必要とされ、ドゥミやルーレットも着地点の見極めが非常に要求されました。

◆予選

①１回戦　フィリピン、13 対２　勝ち（９メーヌで終了）

日本のポワンテの成功率が８３％／３１％

ミリュウの成功率は７３％（ポワンテ９割）／相手 10%（ポワンテ９割）

テイールの成功率は 70%　／相手 0

②２回戦　ベトナム、9 対 10　負け（１０メーヌ終了）：３メーヌ目でテルール選手交代

ポワンテ成功率は 71%／相手 82%

ミリュウの成功率は 43%（T２球；100%）／相手 56%（P７球；93%）

テイールの成功率は 57%（ポワンテ２球０）／相手 71%

③3 回戦　マレーシア、9 対８　勝ち（9 メーヌで終了）

ポワンテ成功率は 84%／相手 50%（T1 球 0）

ミリュウの成功率は 25%（T２球；50%）／相手 67%（T3 球；67%）

テイールの成功率は 84%　／相手 90%（P8 球 63%）

③4 回戦　タイランド B（前年度優勝チーム）13 対１　負け（5 メーヌで終了）

ポワンテ成功率は 70%／相手 120%

ミリュウの成功率は P55%／相手 P67%（T5 球 100%）

テイールの成功率は T67%（P4 球 25%）　／相手 T113%（P1 球 100%）

＊2 勝 2 敗でまずは目標の予選通過、ベスト 8 入りを果たした、試合の展開は決して悪いものではありませんでしたが、やはり長い期間のチーム編成で訓練されたチームには太刀打ち出来なかった。

◆決勝ラウンド

①カンボジア A　13 対９　負け（13 メーヌで終了）

ポワンテ成功率は P74%／相手 P93%（T1 球 0）

ミリュウの成功率は P58%（T17 球 47%）／相手 P58%（T13 球 100%）

テイールの成功率は T71%（P24 球 71%）　／相手 T127%（P6 球 67%）

＊カンボジアはポワンテの安定も勿論ですが、テイールの制度が高くカローが頻繁に繰り出される。記された通り、100%を超えているものはカローが多いということです。
ここで、ネイションズに移る。
最初の相手はマレーシア；時間切れで勝った相手と再度試合となり、気を引き締めて臨んだ。しかし相手も果敢にテイールで攻め、2メーヌで7対0という展開、こちらが応戦する機会を狙いメンバーの入れ替えをしたが、これが上手くゆかず失敗、余裕のなさで選手の気持ちを十分に理解することが出来なかった、コーチとしての大きな反省です。申し訳なかったと思います。結果、6メーヌ、13対4で負けた。

個々に努力してくれて、良い選手に育っている女子は決してアジアも世界もメダルに遠いわけではないと思っています。ただ短期での訓練からでは選手の個性を把握し、戦うための伝えるべきことが十分にできないと感じています、やるからには表彰台に選手が上がってほしいものです。日本の選手を支える十分な土台つくりに、もっともっと多くの方に理解をしていただき、ご協力をお願いできたらと心から願っています。

クアラルンプール再び…。

郷間亜由美

2018年のアジア選手権と同じ会場、アスファルトの上に砂と小砂利の難しいテランのリベンジと、心に秘めて向かったマレーシア…が、しかし…台風が心配される中でのフライト当日、成田空港と関西空港の二手に分かれてマレーシアのクアラルンプールで集合予定でした。台風の進路は変わり関東組は無事に定刻通りフライトできましたが、その台風は関西に向かい、関西組は関西空港で足止めで1日遅れのフライトになってしまいました。

先に着いた関東組は、夕方到着しホスト国が用意したバンに乗りホテルへ向かいました。

深夜出発した関西組は翌朝、ホテルのロビーで合流、皆んな揃って開会式を迎える事が出来ました。

開会式が終わり、すぐシューティング予選が始まりました。女子チームから琴美ちゃんに託しました。ファイナルラウンドへ進めるのはラウンド1でトップ4名とラウンド2で更に4名の計8名
琴美ちゃんは、ラウンド2へ…　予選通過ならず。

シューティング決勝まで行われ 1 日目終了。
次の日からはトリプルス予選が始まりました。
スイス方式 70 分勝負
ラウンド 1 はフィリピン 13-3 で勝利し、次は勝ちチーム同士の対決、コンピーターで相手が決まります。
ラウンド 2 はベトナムに 9-10 の時間切れ、勝利まであともう少しでした。
ラウンド 3 はマレーシア A（開催国 2 チーム参加）ラウンド 3 ではドラマが起きました。
ポワンテ琴美ちゃん、ミリュー郷間、ティール名畑さん。シューティング力の強いマレーシア。ビュットに寄せればガンガン打って来ます。こちらも食らい付き
負けていましたが日本も捲り 1 点差まできたが、審判は腕時計を見始めている。タイムリミットが近づくのを感じていた。ビュットも思うように投げられない固くて荒れている。

ビュット権は日本…。

サイドを狙いたいがビュットはややセンターよりだった。琴美ちゃんのポワンテから始まりそれは打たれ、相手はさしてきた。名畑さんティール、そのティールはビュットををかすめ、ビュットはサイドラインへ…飛ばされた琴美ちゃんの近くに行った。

更に審判達は時計を見てカウントダウンが
とうとうタイムリミットのブザー

サイドライン近くに固められたマレーシアのブール達
マレーシアは 2 球、日本 3 球、マレーシアは最後のブールを 1 番手に付けて来た。8 対 8 の状況…日本の攻撃、カロか？ビュットアウトのどちらでも良い感じのチャンスが訪れていた。名畑さんのティール、それは外れてしまうが、あと 2 球、私のブール。皆んなが繋いでくれたバトン!行けー!
カロとビュットアウトが同時に起こった!!!
持っているブールが加点され、マレーシア A に 9-8 で勝利し、ファイナルランド（決勝トーナメント予選通過）への希望の一歩を踏み出し、予選 1 日目は 2 勝 1 敗で終えました。

予選 2 日目ファイナルラウンドがかかったラウンド 4
相手はタイランド B（前年度優勝国 2 チーム参加）
タイランド B かぁ…若手の方のチームかと思ったら
前年度優勝チームの方だった。強い…なんも出来ず
相手のミスでもらった 1 点だけで、あっさり負けてしまいました。
2 勝 2 敗…スイス方式のコンピューターにかかる。

格上の国に食らいついたポイントと勝ち数で
日本 6 位はファイナルラウンドに進むことが出来ました。

ファイナルラウンドは時間制限無し
カンボジアとの戦い
ポワンテ琴美ちゃん、ミリュー郷間、ティール堅田さん。9-13 あと 4 点でメダルが見えたが届かず悔しかったです。

と、長年日本代表で出場させていただいていますが
少しずつだけど日本女子も戦える力がついて来たかな？と思う今大会でした。

最後に…。
応援して下さった皆様。日頃一緒に暑い中、練習にお付き合いして下さった皆様、そして戦ってくれたメンバー＆コーチに感謝申し上げます。

アジアのレポート

堅田 琴美

今回私はトリプルスだけでなく、初めての女子シューティングに出場しました。シューティングは満足のいく結果が出せませんでしたが、出場させていただけたことに感謝し、この経験を必ず今後に活かしたいと思います。
トリプルスでは予選がスイス方式で、フィリピン、ベトナム、マレーシア、タイと対戦し、2 勝 2 敗で 16 チーム中上位 8 チームに入り決勝トーナメントに進むことができました。昨年度も対戦し負けていたマレーシアに 1 勝できたことが本当に嬉しかったです。今年の優勝国のベトナムとは､時間制限のため 9-10 で負けあと一歩だったからこそ悔しかったです。その後、トーナメントをカンボジアに 9-13 で負け最終結果としてはベスト 8 で昨年度と同じですが、今年は点数を見ても分かるように世界に通用できるプレーがチームで出来た場面が何度もあったと感じています。私自身も昨年度より試合での成功球が増えました。これは今まで国際大会に出場し、思い通りのプレーができず悔しい思いをしたことや、トップレベルの選手達に圧倒的な力の差を見せつけられたことが全て経験となり現れた結果だと思います。
まだまだ世界で勝ち残るには（日本の中で勝つためにも）実力不足ですが、これからも悔しい気持ちをバネに諦めずに挑戦したいと思います。

レポート　ジュニアコーチ　吉本　幸雄

アジアペタンク選手権大会の報告について

皆様のご支援により、選手たちは日ごろの練習の成果を発揮し、プレーすることができました。心よりお礼を申し上げますとともに、ここに大会について報告させていただきます。

8 月 16 日～20 日にマレーシアのクアラルンプールにおいて、アジアペタンク選手権大会 2023 が開催され、ジュニア日本代表チームは、岩手県の小岩宗一郎選手（高 1）・俊博選手（中 2）の兄弟、と高知県の和田一嘉選手（中 1）、岡山県の木下瑞穂選手（高 1）、そして私がコーチとして出場しました。

台風の影響で関西空港発の便が欠航になり、私と和田選手は 1 日遅れで現地入りしたこともあり、チームでの調整が不十分なまま監督会議、抽選会となりました。そのため、当初は小岩兄弟を競わせてシューティング出場選手を決める予定でしたが、話し合いで兄の小岩宗一郎選手に決定しました。

結果は、初日のシューティング予選で小岩宗一郎選手が自己ベストの 33 点を出し、6 位で決勝トーナメントに進出しました。1 回戦は予選 3 位のタイの選手が相手でしたが、序盤からわずかにリードしていましたが、終盤に逆転され 17-22 の 5 点差で敗れ、惜しくもメダルを逃してしまいました。また、この相手選手が今大会で優勝したのでこの 5 点差の大きさを痛感しました。

翌日のトリプルス予選はスイス方式で行われ、初戦タイ A に 1-13、第 2 戦シンガポールに 9-12、第 3 戦台湾に 6-9、そして第 4 戦タイ B（女子 4 人）には 0-13 で敗れ、残念ながら 0 勝 4 敗で予選落ちでした。ネイションズカップでは開催国のマレーシア A と対戦し、3-13 で敗戦し 1 勝もできないまま全試合が終了しました。

今回の反省点として、まずは表面がごつごつとしたアスファルト上に砂利が撒かれたテランに対応しきれなかった事と、歩くたびに砂埃が舞い上がる会場環境の中、私も含め喉を傷め体調不良を訴える者が出てしまったことです。そして、何よりタイやマレーシアに比べて成功投球の確率が明らかに低かった事です。

また、60 分間の時間制限の試合だったため追い上げながらもゲームセットとなった試合もあり、序盤からリードして行くことが大切で国際大会の難しさを改めて痛感しました。

今後の課題として、まず体調管理、様々なテランに対応できるポワンテ力とティール（カロー）力のアップ、そして時間制限への対応能力の強化の必要性を痛感しました。

レポート　ジュニアキャプテン　小岩宗一郎

まず初めに今回のアジア選手権大会の支援・応援をしてくださったたくさんの皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました

今回のアジア選手権に参加してみて改めて感じたことは海外の選手のペタンクの技術の高さとメンタルの強さです アジア選手権の参加国の中でも特にタイが技術、メンタル共に強いと感じました。今年のアジア選手権のジュニアの決勝戦を観戦した時ベトナム VS タイの試合で 0 対 9 でタイが負けていました。しかしそこから逆転をしてタイが優勝した時は 1 球 1 球の精度とメンタ

ルの強さがないと国際大会では通用しないと感じました。
　今後その点を踏まえて自主練習や周りの方との練習等を行い更なる高みを目指していきたいと思います。
　その他アジア選手権での食事・体調管理の大切さも実感しました 今回私を含めて体調不良者が出てしまったので、海外に行った際の体調管理についても今後頑張りたいところです。
　本当に皆さん応援ありがとうございました

レポート　ジュニア選手　小岩　俊博

　今回のアジア選手権の応援をしてくださった方々本当にありがとうございました。今回私は、2 回目のアジア選手権大会でした。海外の選手と戦ったり、試合を見たりして改めて感じたことは、ボワンテの技術が海外の選手は高い事です。どの会場でも適応出来るように普段から色々な投げ方を練習しておくようにしておきます。
　また、メンタルの大切さも改めてわかりました。試合に出て大事な場面などが来た時に焦るのではなくそういう時こそ落ち着いて1投1投投げられるようにしていきたいです。タイの選手が、毎回投げる時に見に行っていたのでそれも真似してみようと思いました。そして、1 投 1 投同じリズムで投げていたのでそのように投げられるようにしていきたいです。
　今後それらの点を意識して自主練習していきたいです。そして 11 月の世界選手権で 1 勝でも多く出来るようにしていきます。
　また、今回のアジア選手権大会の日本選手の中で体調不良の方が多くいたのでこれからは、より一層体調管理には、気を付けて過ごしたいです。その他の食事などもこれからは、頑張っていきます。
　応援やサポートなどをしてくださった方々本当にありがとうございました。

レポート　ジュニア選手　和田　一嘉

　今大会は、真夏のマレーシア開催ということで、暑さを心配していましたが、思っていたほどではなく、競技に影響はありませんでした。
　試合会場のテラン(地面)は、日本では経験したことのない、アスファルトの上に小さい砂利が敷かれた、硬くて難しい地面でした。その為、自分の得意なポルテ(高い弾道)があまり使えず、寄せるのに少し苦労しました。
　ジュニアの代表メンバーは、4 人中、3 名が、昨年のアジア選手権と同じメンバーだったので、とてもやりやすかったです。今大会、初めて一緒になった選手とも大会を通じて、仲良くなれたので良かったと思います。
　生活面では、昨年のタイで苦労した食事も、今回のマレーシアでは食べることができました。大会スケジュールも余裕があり、睡眠もしっかりとることができました。しかし、大会期間中に発熱し、体調を崩してしまい、チームメイトに迷惑をかけてしまったことが、反省点です。今後

は、大会前も体調管理に気をつけて生活したいと思います。

今大会での目標であった、決勝トーナメント進出は達成できませんでした。海外の選手は、ポワンテの選手でもティールが上手かったです。狙ったポイントにボールを投げられる精度が、日本に比べて高いと感じました。その差が、勝敗を分けたと思います。

今後は、来年のアジア選手権の代表を目指して、自分の得意な、ポルテを更に上達させていきたいです。それから、投球前に、テランの状況をきちんと確認し、その状況に応じた投球をして、結果に結びつけられるように、普段から気をつけて、練習していきたいと思います。

ジュニア選手レポート　木下　瑞穂

私は 8 月 16 日から 20 日にマレーシアで開催されたアジアペタンク選手権大会に出場しました。今回の試合の私の役割は主にポワンテでしたが、試合中地面を掴むことが出来ず、チームに迷惑をかけてしまうことが多々ありました。

今回の試合会場は砂利の下がコンクリートでポルテをすると跳ねてしまうため私は座って投げることが多かったです。しかし、座って投げると地面の傾斜で思うようにビュットに寄らなかったりするなどとても難しい地面でした。また、予選の最終試合ではティールをつとめましたが、ポワンテから上手くティールに切り替えることが出来ず成功率がとても低かったです。しかし、チームワークはとても良く試合中はたくさん相談をして戦法を考えることが出来ました。

やはり今回の試合を通してまだまだ練習不足だなと感じました。今の私の課題は回転のよくかかったボールを安定して投げられるようになることだと思います。だから、これからの練習では回転を意識していきたいと思います。

また、2019 年にカンボジアで開催された世界アジア選手権の報告書に次の大会の目標として書いていたことのひとつに様々な国の方とコミュニケーションを取れるように英語を勉強するということがありました。今回は様々な国の方と英語で話すことができ、主に台湾やシンガポール、韓国の人などとジュニアに関わらず、大人の人まで仲良くなることが出来ました。それを通して国際的な視野をもっと広げて行ければいいなと思います。

最後になりましたが、アジアペタンク選手権に派遣してくださりありがとうございました。